







航ちゃん……  
このまんまだと  
苦しいんだけど……  
さっさとイかせてよ……  
んっ、はあっ……

あ、あの、航ちゃん……  
航……ちゃ……  
あっ、あっ……ねえ、早く……  
んっ、動かして……っ、は、っ……

はぁっ

はぁっ

はぁっ

はぁっ

その後、シャワーも浴びずまだふわふわした心地の  
恵美とともに自宅近くの駅前の街を散策して  
とりあえずカフェに入ることとなった

あつ、兎多先輩……！  
こんにちはー！  
あ、すごい偶然ですねっ

んふんふ

恵美の、学園陸上部の  
後輩たちに出くわし  
一緒にお茶する流れになった

ごめんなさい  
デートの邪魔じゃ  
ないですかー？

う、ううん  
大丈夫よ……

そうそう、どうせなら  
にぎやかな方がいいしね

もぎもぎ

恵美が立ち上がろうとした時  
俺はバ●ブのスイッチを  
強へと強めてみた

カチッ  
カチッ  
カチッ

え、あ……ひっ……  
あっ、あうう  
ううっ……!!

トイレに駆け込んだ恵美が  
戻ったあたりで後輩たちも  
『これ以上お邪魔しちゃ悪いんで』  
なんて言っ帰っていった



拒否しなかった恵美の手を引き  
俺たちは駅の男子トイレに入った

う、うぐ、うぐっ……  
やめへ……  
やらあ、これえ……

航、ちやはあ……  
あっ、あっ……  
むぐ、ふう、うっ……  
やらああ……こんな……  
あ、あうう……!

そりゃ嫌だよな  
男子便所の便座の上でぶち込まれて  
全裸で変態女コスプレして  
よがりまくってちやあなあ……





ううっ、くっ、はあ、はっ  
はあっ、ん、ああっ……!!

くう、あつ  
はっ、あつ、あんっ  
はあ、はあ……  
うううっ、うーっ  
ぐうぐうっ……!!!

だだだだだ  
だだだだだ  
だだだだだ



んああつ、あつ、あう、ああつ！  
あ、あーっ！  
くううう、うう、あつ、あつ  
くうううう……！！

はあ、ふう、はっ、ううう！  
お尻っ、くっ、お尻っ  
上げてっ、あうう！

Da! Da!

Da! Da!

Da! Da!

Da! Da!



あ、はあ、はあ  
あつ、あつ、あはあ！  
あああつ、くーっ！！

いぐ、うっ、うっ！  
もっ、はあ、はあ  
いぐううっ！！

んはああ、あつ、うあつ  
ああああああーっ！！

んおおつ、いく、うーっ！！  
いけつ、いけええ、いぐうう  
んほおおおおおおおんっ……！！

タタタタ  
タタタタ  
タタタタ

タタタタ  
タタタタ  
タタタタ

その日以降は二人だけの逢瀬  
密室での秘密のプレイを愉しんでいる



はあ、はあっ……  
ん、っ……あん……  
ご、ご主人様……  
あああん……

はき

はき

はき

はき

はき

はき

はき

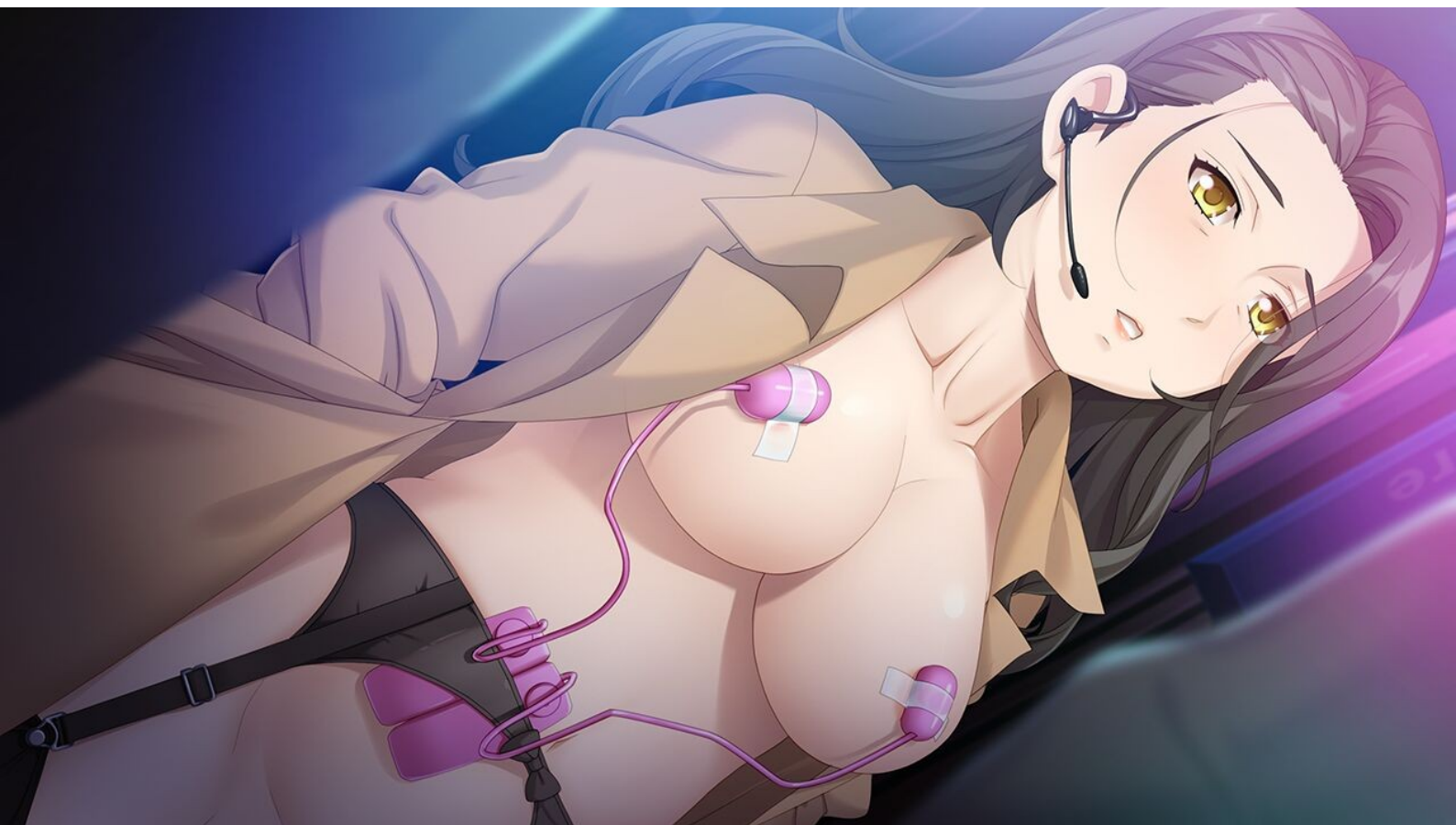
あ、あうう！  
やっ、あっ、痛ああ！  
む、鞭っ、ううっ  
やめ……あう！







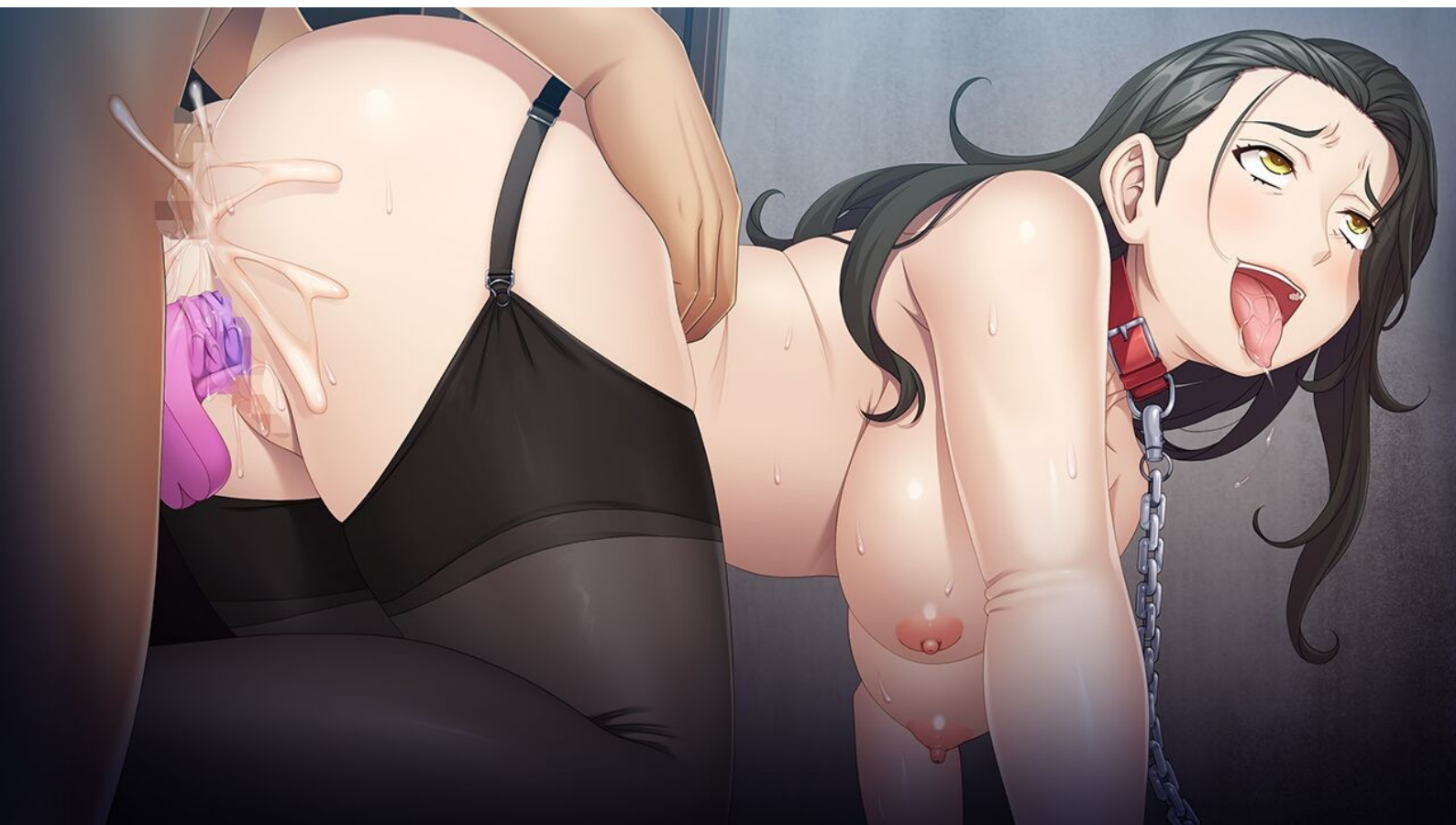


















きし...

はぐ、ふぐっ、んぐむっ  
はあ、ふはっ、パパあああ  
やはあ、苦ひっ、ふぐう

きし



……パパあ？

動くな、命令だ  
じっとしている

びしょ濡ら

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

次はドアを使って、  
吊るし上げてやろう。



ドガッ

やあらあ、あそこお、  
んんっ、恥ずかしひ！

あそこ……  
切られてへ



痛いのに  
いったんだらう？

よかつたな、瑠菜  
はあ、はあ、くくく

あ、あぐううつ、  
乳首ひ、ちぎれて、なひい  
でも、真っ赤あ、痛いの

乳首ひ



わ

ん

んひゃっ!

やあ、らあ……



さあ、飲むんだ

チューブをストロー代わりに、  
自分のオシッコを全部飲むんだ

え、あつ、オシッコ……？  
んぐっ、え、えっ、オシッコ  
飲む……あ、あつ、んっ……

いっ

あ







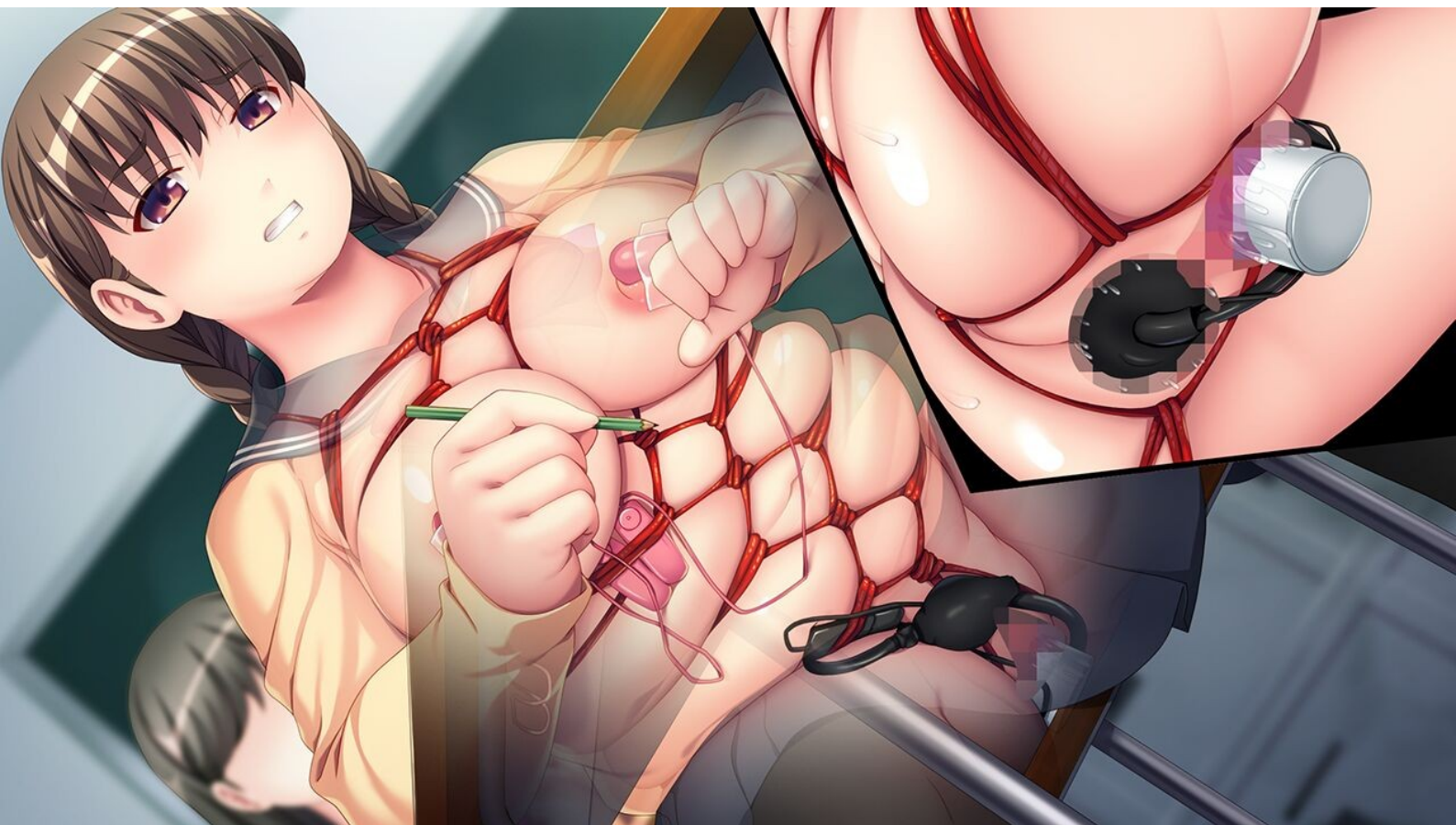


































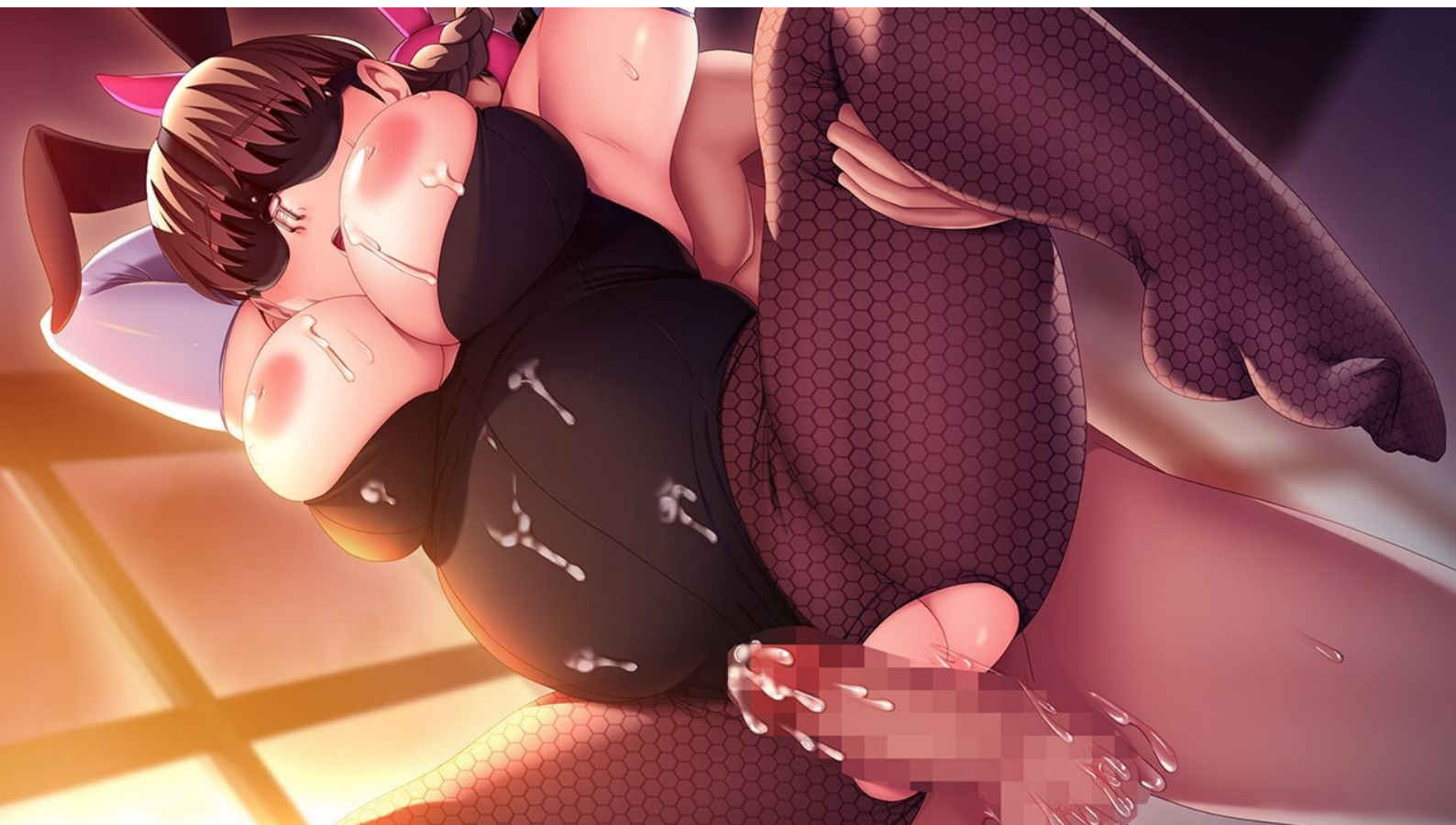












































В ПАРАЛЛЕЛЬНОМ МИРЕ МОНСТР НОНОМИМЫ...

ЧТОБЫ ОСТАНОВИТЬ ЕЁ, МНЕ ПРИШЛОСЬ РАЗОРВАТЬ ЕЁ НА КУСКИ И ПОМЕСТИТЬ В СПЕЦИАЛЬНУЮ КАПСУЛУ.

ОНИ ДО СИХ ПОР СОДЕРЖАТ ЕЁ ЧУВСТВА И ВОЛЮ.

БЫЛ НЕПОБЕДИМ. Я МОГЛА ПОРУБИТЬ ЕЁ НА МЕЛКИЕ КУСОЧКИ, И ОНА МОГЛА РЕГЕНЕРИРОВАТЬ, ЕСЛИ Я ОСТАВЛЯЛА ХОТЬ ОДИН.

АХ!

АХ!

НХ!

ТЫСЯЧИ ЛЕТ ЧУВСТВОВАТЬ ТО, КАК РАЗРЫВАЕТСЯ ТВОЁ ТЕЛО...

ИНТЕРЕСНО, МОЖЕТ ОНА УЖЕ СЛОМАЛАСЬ?

НО, КАК ВИДИШЬ, ЭТОТ ТИП БОЛИ ПРЕВРАЩАЕТСЯ В УДОВОЛЬСТВИЕ.

ГХА!

ЧТО Ж... МОЖЕТ ТЕБЯ ЖДЁТ ТА ЖЕ УЧАСТЬ? Я ЗНАЮ, КАК МНЕ ПОВЕСЕЛИТЬСЯ С ТОБОЙ ...

ЧТО... У МЕНЯ В ЖИВОТЕ?!



НХО

СНАРУЖИ ЭТОТ КОСТЮМ ТАКОЙ ТЕСНЫЙ, И... ВОЗМОЖНО, ИЗ-ЗА ДАВЛЕНИЯ МОИХ РАСТУЩИХ ЯИЦ ТЫ ЧУВСТВУЕШЬ СЕБЯ КОШМАРНО?

ЯИЦ? !?



ФУФУФУ... Я УЖЕ ЦЕЛУЮ МИНУТУ ИХ ВЫПУСКАЮ. И ВСЁ ЕЩЁ НЕ МОГУ ПРЕКРАТИТЬ...

ОХ



СТО МИЛЛИОНОВ МОИХ ЯИЦ ПЬЮТ ТВОЮ ПОХОТЛИВУЮ ЭНЕРГИЮ И РАСТУТ В ТВОЁМ ТЕЛЕ...

НХА

АХ



КХ

ЖИДКАЯ ЗАТЫЧКА, ОТ КОТОРОЙ ТЫ НИКАК НЕ СМОЖЕШЬ ИЗБАВИТЬСЯ.

ОХ, ТЫ ЗАМЕТИЛА?

НЕТ... ПРОШУ! ВЫТАЩИ!

Я ЗАПЕЧАТАЛА ТВОИ ДЫРКИ ЛИПКОЙ ЖИДКОСТЬЮ, ТАК ЧТО ЯЙЦА НЕ ВЫТЕКУТ.



НАШИ ДЕТИ  
БУДУТ  
ВСЁ ВРЕМЯ  
ЕБАТЬ,  
И ЕБАТЬ,  
И ЕБАТЬ  
ТЕБЯ.

СЛОВНО  
ГРУДНОЕ  
МОЛОКО,  
ОНИ БУДУТ  
ЕБАТЬ И  
ОПУСТОШАТЬ  
ТВОЮ ВНУ-  
ТРЕННОСТИ.

Я НЕ ЗНАЮ,  
СКОЛЬКО  
ДЕСЯТКОВ  
ТЫСЯЧ  
ПОЯВЯТСЯ  
НА СВЕТ,  
НО ДЕТИ...

ЦЕЛУЮ  
НЕДЕЛЮ  
ТЫ БУДЕШЬ  
ВЫХАЖИВАТЬ  
ЯЙЦА И КОНЧАТЬ  
БЕЗ ОСТАНОВОК.  
ДЕТИ УНАСЛЕ-  
ДУЮТ ТВОИ  
ГЕНЫ  
ПОХОТИ.



ПРОЩАЙТЕ,  
ЖАЛКИЕ  
НАСЕКО-  
МЫЕ.



КОН-



Снова



АХ...  
ПРО-  
КЛЯТЬЕ,  
ПОХОЖЕ,  
ПРИШЛО  
ВРЕМЯ...

СВА-  
ЛИВАТЬ  
ОТСЮ-  
ДА.

Хах

Я снова  
кончаю...

Хах

Ах...

...

3

8



ポンポーン

ズッ

ズッ

「……!」

不意に大きな電子音が響き、  
僕たちは繋がったまま硬直する。

ドキ

〜



射精の瞬間、膣内からペニスを引き抜く。  
みちるさんの火照った尻肉に  
どろどろの精液を浴びせていく。

「んあ……あっは、あああ……  
あっは……ああっ！」

セリグッ

セリグッ

セリグッ

びちゃっ

びちゃっ

セリグッ

セリグッ!



ゲイッ

「あつ、あ、んっは、は、んあ……っぐ」

「そんなによだれを垂らして……みつともないな。まるで犬……いや、これは馬だったっけ？」

「はがつ！ あつ、は、むあつ、あああ……っ！」

ぎゅ

ぐるん

ああ……

ああ……



「……みちるさん」

一通り欲望を吐き出したところで僕は我に返った。

目の前には精液で濡れ

白目を剥きかけているみちるさんが……。

「うわあああつ、みちるさんー！」

んんんんん！

セクシー

おびゅ

ゴボ

「……お待たせしました。  
『ドキッ☆変態熟女の拡張生配信』  
はつじまるよ〜!」

「今回はこのドスケベ熟女……  
『ミセスM』の性器を皆さんと一緒に  
拡張・開発していきたいと思います」



「ふはっ！ おっ、おぐ……  
うっ、んふうっ」

「あぁっ、あそこ、広がって……  
らっ、あっ、はぁぁぁっ！」

ぞくぞくぞくぞく！！

ぎゅ

ん

んあっ

肉びらが柔軟に伸びて  
パイアの周囲に張り付く。





——ビール瓶。

「中瓶ビール二丁〜」

「ひっ、冷た……  
なっ、なに、やっ、  
ああ……っ〜」



W  
~~~~~  
!!!



——アイスキャンデー！

「アイスキャンデー、  
入りまーす！」

にゅる

にゅる

にゅる

ああん

「あつ、あつ、あつ、そんな……  
はつ、あつ、あつ、あつ……」





「うっく、ふあ……」

「ああっ、映さないで……っ」

「そうじゃないだろう？」

「ほら、お客さんに向けて」

「言われた通り挨拶して」

「うっく、ふっく……っ」

「Eh! Eh!」

「ばっ」

画面に乱れ飛ぶコメントの嵐。  
様々な言葉の弾幕が  
モニターを埋め尽くしていた。

回元を丸ごと覆うような  
大きなマスク。  
それをみちるさんの顔に  
装着していく。

マスクの口部分は  
開口器になっており、  
彼女の口が閉じないように  
強制的に広げさせる。

「おぐっ、ほ、おうっ、  
ん……おっ  
ん……」  
「うぐっ、ふ……  
んっ、むおっ、おうふ」



「虎太郎ちゃ……んんんー!」

あれから年月が経った今も  
みちるさんの美貌は  
僕の心を捕えて離さない。

初めて見た時から今まで、  
僕はずっと彼女の虜だ。

「んんん……んんん  
んんんはっ。は、ああ」

「クリトリス……っ、潰れてっ」



……そして最後の時まで、  
僕は彼女のご主人様でありたい。

「ありがとう」

感謝の言葉を口にしながら  
彼女は再び柔らかく笑ってみせる。



んっ……

んっ  
んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ  
んっ  
んっ

んっ



んっ…

合同授業。

隣に座る冴依は制服姿だが  
その下はノーブラにノーパン。

しかも胸やアソコを縄で縛って  
二本のバイブまで挿入している  
エロ調教状態。

「冴依、大丈夫？」

小声で訊いてみるが返事をしてくれない。

キーン……

バイブの刺激で  
絶頂してしまった彼女の顔は  
羞恥に染まり、  
今にも泣きそうな瞳で  
俺を見つめてくる。

んあっ

ぐしょ、

んんん！！

カチ

「わかったよ、もうとめるから」

と言いながら、  
バイブの強さを最大まであげる。

「ほうっ！ またイク、

またわたし、また……

んうっ、んんんんんんんんんん

ー」

ぐぐぐぐぐぐぐぐ

ぐ

ぐ

ぐしょ、

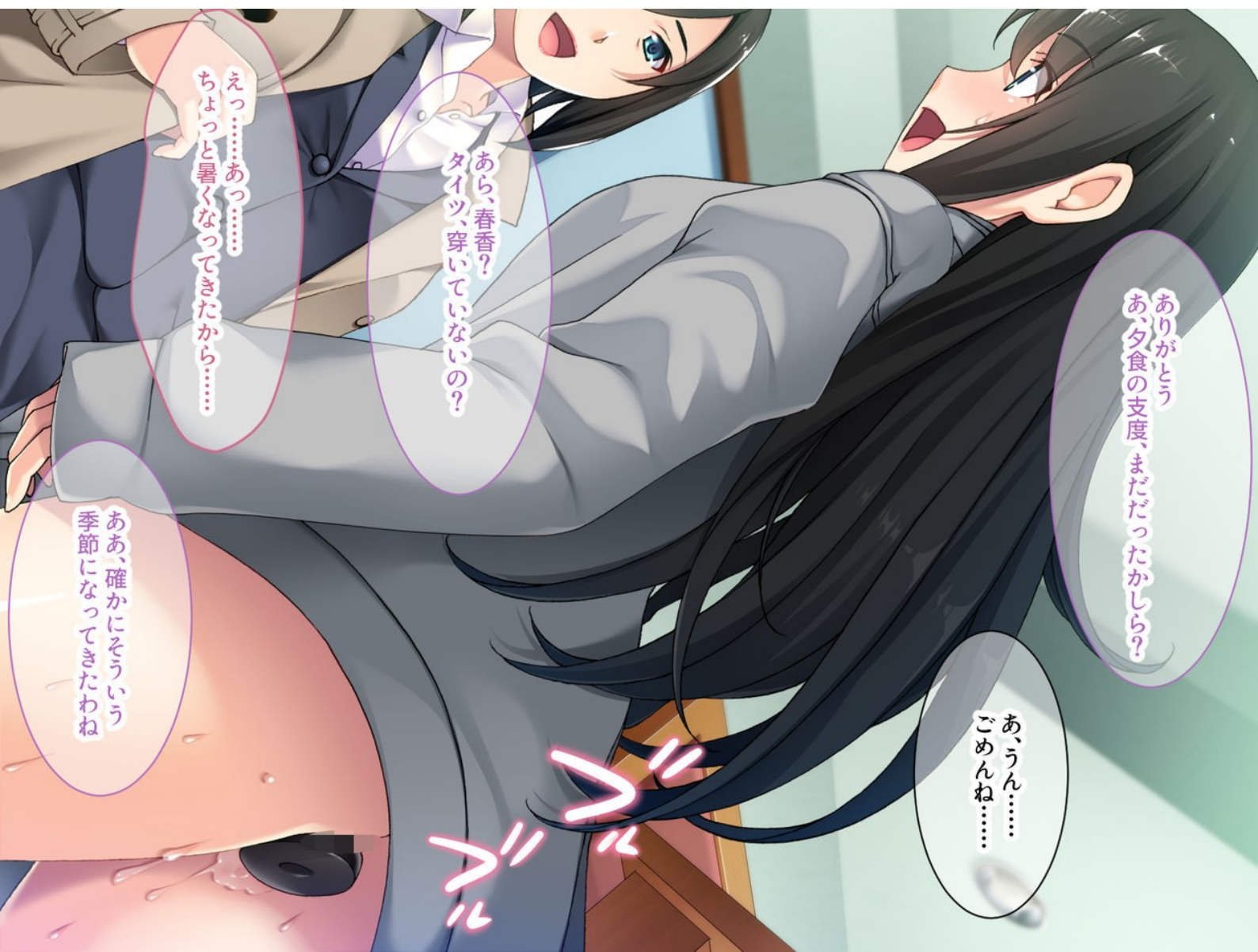


「ああっ、みんながわたしを見てる、  
わたしの身体を見て……  
んっ、んう~~~~っ」

俺は水着姿の冴依をリードで引きながら、  
健全なSM散歩デートを楽しんでいた。

ああ……





ありがとう  
あ、夕食の支度、まだだったかしら？

あ、うん……  
ごめんね……

あら、春香？  
タイツ、穿いていないの？

えっ……あっ……  
ちよっと暑くなってきたから……

ああ、確かにそういう  
季節になってきたわね

ぐんぐん



ごめん……ママ……  
トイレに……行くね……

え、ええ、行つてきなさい  
大丈夫かしら……？

心配だね……